

会 議 録

◇詳細—企画調整グループ 電話03-3981-4201

附属機関又は 会議体の名称		平成26年度 基本計画策定委員会(第2回)
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		平成 26 年 8 月 18 日(月) 10 時 00 分～10 時 50 分
開催場所		議員協議会室(本庁舎4階)
議題		(1) 区民意識調査等の実施について
公開の 可否	会議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区行政情報公開条例第7条第1項第5号による
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	副区長(委員長)、副区長(副委員長)、教育長(副委員長)、政策経営部長・特命政策担当部長・総務部長・施設管理部長・新庁舎担当部長・区民部長・文化商工部長・清掃環境部長・保健福祉部長・健康担当部長・池袋保健所長・子ども家庭部長・都市整備部長・地域まちづくり担当部長・建築住宅担当部長・土木担当部長・会計管理室長・教育総務部長(欠席)・選挙管理委員会事務局長・監査委員事務局長(欠席)・区議会事務局長(欠席:代理)
	幹事	財政課長・行政経営課長(欠席)・区長室長(欠席)・施設計画課長
	説明者	企画課長
	事務局	企画課企画調整グループ係長

審 議 経 過

(1) 区民意識調査等の実施について

《案件の説明》

説明者： 資料に基づき、区民ワークショップ、区民意識調査の実施について説明。

ワークショップの実施に向けて、前回いただいた意見を踏まえながら検討、具体化を図った。対象者の選出方法としては、できるだけ多くの区民に参加の機会を提供できるよう、住民基本台帳からの無作為抽出数を2,000人から3,000人に増やした。実施日については、10月4日(土)、同5日(日)の連続する2日間とし、長期にわたる拘束感・負担感の緩和を考慮した。テーマは3つ設定し、基本構想の点検・基本計画の策定に資する観点から具体的に絞らず、福祉、子育てなどの「ともに暮らす」、環境、都市基盤整備などの「ともに築く」、文化、コミュニティなどの「ともに創る」としたい。討議にあたっては、ドイツ発祥の市民参加の手法である「プラーヌクスツェレ」を参考に実施し、区職員から情報提供を行なったうえで、住民主体で議論を進めていく。そこで出された意見については、基本構想審議会等へ報告し、今後の検討に活用していきたい。

次に、区民意識調査の調査票であるが、冒頭で定住意向や愛着などを聞いたうえで、その後は、これまで実施している既存の調査とできるだけ重複しないよう項目の設定に努めた。基本計画の地域づくりの8つの方向について問いかけをしているほか、地域や区政への参加意向についても突っ込んだ分析ができるよう質問や選択肢を工夫してみた。今後の豊島区のまちづくりについても聞くことにしており、委員よりご意見をいただければと思う。

《主な意見と質疑》

委員長： 住民基本台帳から抽出する際に、外国人は含まれるのか。

説明者： 抽出の際には含まれる。ただし、ワークショップにおいては日本語で会話ができる方となる。アンケートについては、英語版、中国語版、韓国語版の調査票を事務局に用意をしておき、対応できるようにする。

委員長： アンケートで愛着を感じているかという質問は、他の調査でもあるのか。

説明者： 協働のまちづくりに関する区民意識調査に入っている。

委員長： アンケートは修正可能なのか。

説明者： 今週中頃までにいただければと思う。

委員： 昨年度実施した区民意識調査と重複しているように思う。現在のイメージや良いところ悪いところを聞いているが、豊島区としてこれからどういった点を伸ばしていったら良いかを聞いたほうがよい。また、賑わいのあるまちか、閑静なまちかを対比して選択させる質問があるが、地域の状況もそれぞれであり、どちらかを選ばせるのは難しい。聞いても何になるのかという感じはする。悪いところを聞くというよりも、改善していくべき点という聞き方もあるのではないかと。時系列に今後の豊島区の方向性を聞くことが大事ではないか。

説明者： 指摘を踏まえ検討したい。

委員： これからのまちづくりを聞く中で、「区民、企業、行政などはどのような対応を」という質問があるが、それぞれ役割が違う。こういう聞き方ではそれぞれが何をすべきかが明らかにならず、計画に反映するのは難しいのではないかと。

説明者： 行政に期待することだけではなく様々な取組みを含めてみたが、主体が分かりにくいとい

う面はある。質問の仕方や選択肢を工夫したい。

副委員長: 地域づくりの方向の質問にある学校教育についていえば、一般的には学力やいじめについての感覚がアンケートに反映しやすい。生きる力とかでは分かりにくい。項目を増やせないか。

また、問1で豊島区への愛着を聞いているが、別の言い方をすると豊島区の気に入っているところ、好きなどころという聞き方もある。その要因を次の質問でしていくこともある。最初の問いは大事であり工夫ができないか。

説明者: 地域づくりの方向の質問にある政策の説明は、基本計画の記述をそのまま使用したものである。また、区への愛着の度合いは、地域活動や区の政策への関心の度合い、定住意向とも密接に関連しているのではないかと想定している。豊島区をどれだけ身近に感じているかを確認したいと思っており、表現については適切なものがあれば変えていきたい。

委員: 基本計画の地域づくりの方向全般について区民の認識度を測る調査になっているが、この中身で評価を取るのはいさ少し無理があると思う。区民に聞いた結果をどう活用するかを考えると実効性が期待できない。施策の表示を具体的にしたり、区の売りや他との差異を例示などして示さないと、この記述だけで評価を聞くのは難しいと思う。こうした聞き方は初めてのケースであり、事務局の認識を確認したい。

説明者: 確かに中身がイメージしにくいという面はある。もう少し具体的に説明する必要があると思うので、事業の例を入れるなど改善を加えたい。満足度、重要度については、傾向を把握することによって、今後の課題や分野ごとの違いも見えてくると考えている。

委員: これまでの調査では、施策の方向レベルで聞いてきた。それが良かったのか悪かったのかの総括をしないといけない。今回はその上の政策レベルの質問である。論理的には区はここに書いてある政策は等価値という前提であり、どれが優先かはない。どこが重要かを聞くのは矛盾している。聞くのであれば、もう少し細かいレベルで聞かないと、これまで区が考えてきたことと矛盾してしまう。設問を変える場合は、以前の調査の良かった点と悪かった点を検証したほうがよい。良い点は残し、改善した点はこうしたという、過去からの学習がないといけない。

説明者: 指摘を踏まえ検討したい。

副委員長: 区政の評価においては政策の満足度を聞いているのだと思うが、区民から見ると、政策として実施していることの満足度なのか、現在の状況の満足度なのか分かりにくい。政策の善し悪しではなく、現状のレベルの善し悪しの答えが返ってくる可能性がある。聞き方を工夫した方がよい。今回は、ワークショップとアンケートということであるが、F1会議など同時併行でいろいろなものが進んでいるので、それらとも連携させて反映できるようにしていければと思う。また、企業、勤務者、住んでみたい方など外からどう見えているかも、把握する方法を考えてもらいたい。

説明者: 基本構想審議会にはF1会議のメンバーも入っているので、一定の反映ができると期待している。団体、企業等へのヒアリング、WEBを使ったアンケートなどが考えられる。何らかのかたちで捕捉できるような手段を実現していきたい。

委員長: 様々な意見をいただいた。これらを踏まえて検討を加え、結果を委員へ知らせるように。本日はこれで終了する。

会議の結果	区民ワークショップの実施については、了承。 区民意識調査については、調査票の内容を再検討し、改めて提示する。
提出された資料等	・基本計画策定のための区民ワークショップの実施について(案) 参考:他自治体における実施概要 ・基本計画策定のための区民意識調査 調査票(未定稿)